

研究・調査報告書

報告書番号	担当
9 7	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Alcohol intake among women and its relationship to diabetes incidence and all-cause mortality: the 32-year follow-up of a population study of women in Gothenburg, Sweden.</p> <p>女性の飲酒と糖尿病の発症、総死亡の関連：スウェーデン、ゲーテンプルグ女性集団の32年間の追跡</p>	
執筆者	
Lapidus L, Bengtsson C, Bergfors E, Bjorkelund C, Spak F, Lissner L.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Diabetes Care 2005; 28(9): 2230-5.	
キーワード	
飲酒、糖尿病、総死亡、肥満	
要 旨	
<p>背景</p> <p>この研究の目的は女性の飲酒習慣と糖尿病の発症、総死亡との関連を明らかにすることである。解析の際、飲酒と糖尿病、総死亡の関連に対する交絡要因と考えられる年齢、家族歴、教育、社会経済的状況、身体活動の不足、喫煙、血圧、血清脂質、さらに特に重要なものとして肥満を考慮して検討した。</p> <p>対象と方法</p> <p>1968～1969年にスウェーデン、ゲーテンプルグの38～60歳の女性1,462人を無作為抽出し、糖尿病の発症と総死亡をエンドポイントとして32年間追跡した。この間、4回の調査を実施した(1974-1975、1980-1981、1992-1993、2000-2001年)。糖尿病の発症は糖尿病の薬物治療の開始、2000-2001年の調査で2回の空腹時血糖値が126mg/dl以上、医師が糖尿病と診断した、または糖尿病で死亡した場合と定義した。また飲酒量の変化をベースラインと1980-1981年時の飲酒量から求めた。解析には比例ハザードモデルを用いた。</p> <p>結果</p> <p>対象者の24%は飲酒経験がなかった。肥満女性(BMI>30)の平均飲酒量は週75グラム、非肥満女性では145グラムであった。年齢のみ調整すると、ワイン、リキュール、総アルコール摂取量のいずれも糖尿病の発症と負の関連を示した(ハザード比はそれぞれ0.88、0.84、0.83)。しかしこの関連はBMIを調整すると消失した。糖尿病の発症と有意に関連していた要因は、家族歴、BMI、ウエストヒップ比、身体活動の不足であった(いずれも正)。年齢のみ調整するとビールまたはワインの摂取は総死亡と負の関連を示したが、他の要因を調整すると有意差は消失した。年齢と家族歴を調整したモデルでは飲酒量の増加と糖尿病の発症に負の関連を認めた。また飲酒量の増加と総死亡は、様々な要因を調整したモデルで有意な負の関連を示した。</p> <p>結論</p> <p>飲酒と糖尿病の発症、総死亡との負の関連は、様々な交絡因子の影響を受けており、特に肥満によって大きく修飾されている。飲酒群は非飲酒群に比してやせているため糖尿病の発症率が低いかもしれない。またこの関連は社会経済的因子の影響も受けている。飲酒と糖尿病の関連をみる際にはこれらの交絡要因に注意を払う必要がある。</p>	